HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	まえがき
Author(s)	江田, 真毅; 天野, 哲也; 小野, 裕子
Citation	北海道大学総合博物館研究報告, 8
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/61590
Type	bulletin (other)
File Information	v.8-1_preface.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

まえがき

本特集号は、1967年度から1974年度に北海道大学文学部附属北方文化研究施設（1966年～1995年）によって実施された、枝幸郡枝幸町目梨泊遺跡の発掘調査に関する報告である。北方文化研究施設では、オホーツク文化の理解のために、道北地方の一連の遺跡（稚内市オンコロマナイ、礼文町香深井A・B（現1・2）、目梨泊、礼文町元地）の発掘調査と、道東・道北地方および北部日本海沿岸の一般調査を長年にわたって継続し、また、これらの調査成果を公開するために整理・分析作業も進めていた。その成果は、『オホーツク文化の研究』（全6巻）にて公開の予定であったが、第1巻『オホーツク文化の研究１　オンコロマナイ遺跡』（1973年、東京大学出版会）、第2巻『香深井遺跡　上』（1976年、同出版会）、第3巻『香深井遺跡　下』（1981年、同出版会）の刊行をもって中断していた。

1999 年北海道大学総合博物館の開設にともなって、これらオホーツク文化関連の遺物・調査記録・測量図面類は北方文化研究施設から当館に移管され、資料部研究員に就いた大井晴男名誉教授、天野哲也、小野裕子等により報告書刊行に向けた整理作業・原稿執筆が進められていた。しかし、報告書の刊行を待つことなく大井晴男先生は 2013 年５月 28 日に 79 歳で逝去された。大井先生が目梨泊遺跡の調査報告のために準備されていた遺稿は、ご遺族の許諾を得て北大総合博物館に引き渡された。これらの原稿は 2005 年７月頃までに書かれたものである。

諸般の事情から、今号には大井先生が執筆された原稿のうち、第I部「目梨泊遺跡の調査」第1章「目梨泊遺跡について」と第2章「目梨泊遺跡の調査」の第1節「調査区の概要」および大井先生による目梨泊遺跡に関する総論的理解である第II部「目梨泊遺跡の研究」を掲載する。各トレンチおよび各住居址の発掘に関する具体的な事実記載（第I部第2章第2節以下）は次特集号に掲載の予定である。編集にあたって、原稿には、ご遺志を尊重し、明らかな誤字脱字以外は原則として手を加えない方針であるが、北海道大学総合博物館の研究報告として刊行・公開するために、編集委員・編集協力者の指摘を受けて一部加筆・修正した。

1987年以降、目梨泊遺跡では、枝幸町教育委員会やオホーツクミュージアムえさし、筑波大学歴史・人類学系、札幌大学文化学部による行政発掘や学術発掘が実施・公開され、同遺跡の研究に大きな貢献がなされてきた。他方、北方文化研究施設による発掘調査の成果が長年公開されなかったことは、目梨泊遺跡の全体像の把握のためには大きな障害となって来ており、批判を免れない。これらの資料を受け継いだ北大総合博物館は、目梨泊遺跡の発掘成果の早期公開に努め、その学問的責務を果たすべく尽力してゆく所存である。

江田真毅・天野哲也・小野裕子